

わが国における海外渡航者の推奨予防接種に関する検討

研究協力者 氏家 無限 国立国際医療研究センター国際感染症センター
研究協力者 牧江 俊雄 成田空港検疫所検疫情報管理室
研究代表者 加藤 康幸 国立国際医療研究センター国際感染症センター

A. 研究目的

2014年から15年にかけて届出のあったエボラ出血熱疑似症患者のうち3例が最終的にマラリアと診断された。また、国内排除の認定後に麻疹の輸入症例が発生し、小規模な国内流行も発生している。これらは、渡航時には海外で常時発生している感染症の予防が重要であることを示している。

現在、海外渡航者を対象とした感染症の予防に関する情報は厚生労働省検疫所ホームページ(FORTH)が広く活用されている。ここでは承認されている原則的に予防接種が取り扱われてきたが、国内未承認のワクチンが薬監証明を取得して輸入され、トラベルクリニック等で提供されることも普及し、承認薬も時間とともに変化してきた。また、先進各国ではインターネットで情報を充実させるなど、詳細な渡航国別の推奨ワクチンが提示されてきた。これらの現状に合わせて、わが国においても推奨すべき予防接種、あるいは予防内服を整理し、海外渡航者にわかりやすく提示する必要がある。

B. 研究方法

「海外渡航者に対する地域別の予防の推奨」リストを作成するに当たり、海外渡航先の国に対する各予防接種の推奨度を評価するため、英国のNational Travel Health Network and Centre (NaTHNaC)によるTravel Health Pro及び米国のCenters for Disease Control and Prevention(CDC)によるTravelers' Healthのウェブサイトの情報参照し、それぞれ235,238か国(地域)に対する渡航者への推奨度を、全ての渡航者への推奨(All Traveler)の場合3点、多くの渡航者への推奨(Most Traveler)の場合2点、一部の渡航者への推奨(Some Traveler)の場合1点として点数化して集計した。更に、国際連合の定める

22の地理的地域区分に従い、各ワクチンの平均点を地域ごとに算出し、推奨度を決定する際の参考とした。この参考情報を基礎に、本邦における海外渡航事情等を考慮し、地域への渡航者に対する各ワクチン及びマラリア予防内服の推奨度について、渡航前の予防接種が推奨される、○渡航前の予防接種が多くの場合推奨される、渡航前の予防接種が推奨されることがあるとして評価を行った。

C. 研究結果

別添のとおり、推奨ワクチンについて表にまとめた。

黄熱の推奨度については、国際保健規則に基づき、渡航日程等によって黄熱接種証明書の必要性が異なるため、黄熱に感染するリスク国が含まれる地域をとして表記し、詳細についてはFORTHの「黄熱について」を参照することとした。加えて、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、ジフテリア・百日咳・破傷風、インフルエンザについては、予防接種法に基づく定期の予防接種ワクチンに準じるワクチンとして、A類疾病対象ワクチンを「原則、全ての渡航者に接種が推奨されるワクチン」、B類疾病対象ワクチンを「ハイリスク者では渡航前の予防接種の適応を検討することが推奨されるワクチン」として記載した。腸チフス及びダニ脳炎ワクチンについては、国内での製造販売承認を得たワクチンはないが、欧米諸国を中心に国際的に広く流通し、本邦からの海外渡航者にも予防接種の必要度が高いことから、未承認ワクチンとして記載を行った。

参考資料

濱田篤郎(2017)『海外健康生活Q & A 海外赴任者必携』経団連出版

謝辞

本報告に対して貴重なご意見をいただいた，川崎医科大学医学部小児科学尾内一信主任教授，東京医科大学渡航者医療センター濱田篤郎教授，川崎医科大学小児科中野貴司教授，千駄ヶ谷インターナショナルクリニック篠塚規院長に深謝する．

